

30E13-pm10S

徳島県内の調剤薬局における医療用麻薬普及への課題

○長尾 尚俊¹, 青木 秀一¹, 水野 馨子¹, 森田 紗世¹, 水谷 友也¹, 伊勢 佐百合², 中田 素生¹(¹徳島文理大薬,²北常三島薬局)

【はじめに】近年では、日本における医療用麻薬の消費量は年々増加傾向にあるが、先進国に比べ少ない現状である。今回は徳島県における麻薬小売免許を取得している薬局において、医療用麻薬の使用状況と医療用麻薬の普及のための課題をアンケート調査し、分析を行ったので報告する。

【方法】調査期間は平成21年10月1日～平成22年9月30日の1年間とし、徳島県内の麻薬小売業免許を有する調剤薬局を在宅薬局マップをもとに86薬局を選定し、アンケート調査を行った。

【結果】アンケートの返信があったのは、54薬局、返信率は62.8%であった。医療用麻薬使用実績は61.1%だった。医療用麻薬の中で使用が多かったのは、内服ではオキシコドン、外用では持続性のフェンタニルであった。しかし、モルヒネ注射薬では徳島県内において2薬局しか使用がなかった。麻薬使用総量は2959.63g(モルヒネ換算値)だった。個々のアンケートから麻薬の使用量に比例し、麻薬の副作用対策や適正使用への関与が行われている反面、薬局薬剤師のオピオイドローテーションへの関与が少ないという結果であった。

【考察】医療用麻薬普及の為には麻薬小売業者間連携の強化、薬剤師のチーム医療への積極的参加し、医療用麻薬適正使用への薬剤師の寄与なくしては、今後の医療用麻薬の普及につながらないと考える。